

光岡暁恵

(ソプラノ、第5回静岡国際オペラコンクール優勝者)

「得意分野のオペラをしっかりと勉強すること。」

オペラを志す方は是非受けていただきたい。」

訊き手＝横谷貴一

3年ごとに開催される静岡国際オペラコンクールの第8回目が2017年11月に行われるが、その参加申込み受け付けが始まった。同コンクールは、大正、昭和初期という時代にイタリアやアメリカで「蝶々夫人」の主役を2000回も務め、絶賛を博した日本が誇る大プリマドンナの三浦環を讃え、没後50年に当たる1996年から開かれている。次代を担う声楽界の人材を発掘・育成しようというもの。

このコンクールの第5回(2008年)で日本人初の第1位(他に三浦環賞、オーディエンス賞も受賞)に輝いたソプラノの光岡暁恵さんに、コンクールのことや今回挑戦しようという方々へのアドバイスなど、お話を伺った。

—このコンクールを受けようと思われたのは？

光岡 チューリッヒ歌劇場の研修生だったときに、研修生仲間がコンクールの外国版のチラシを持ってきて、一緒に受けてくれないかと言ってきたので、私も応募しました。その方が言ってきたので、私も応募していませんでしたね(笑)。だから良かったのですが、その友人は1次で落ちてしまったので、何と言ったらいいか…。でも彼女は

いい人だったので、絶対に優勝してねと言つて後押ししてくれました。

—このコンクールはきちんとオペラが歌えないといけませんから、結構大変でしたでしょう？

光岡 2次予選では自選のオペラ全曲から選定された箇所を歌わなければいけませんので、そこが一番大変ですね。どこが指定されるか分かりませんので、全部勉強していなければいけません。

—既にデビューされた後なので、いくつかのオペラの舞台は経験されていますね。

光岡 昭和音大時代に大学のオペラで何かオペラの経験は積んでいましたので、2次予選の自選役リストの中から経験を積んだものを選択できたことがやはり大きかったです。20代のうちにそうした経験を積めたことが良かったと思います。それにこのコンクールは年齢制限が33歳までなのでぎりぎり受けて、その分経験を稼げたかなと思います。

—優勝後、何か影響はありましたか？

光岡 オペラやコンサートの現場で会う方に、静岡で優勝した方ですね、と名前を覚えてもらえると嬉しいですね。それに静岡の県民オペラで「夕鶴」もさせていたたりとか、その後藤原歌劇団で

■第8回静岡国際オペラコンクール2017

参加者を募集中

♪開催期日＝第1次予選：2017年11月11、12、13日

第2次予選：11月15、16日

本選・表彰式：11月19日

♪応募資格＝年齢33歳まで

(1983年11月11日以降に出生した人)

♪申込受付期間＝～5月1日まで。

♪詳細問合せ、申込

〒430-0929 静岡県浜松市中区中央2-1-1

静岡文化芸術大学内

「静岡国際オペラコンクール実行委員会事務局」

TEL 053-457-6446、FAX053-457-6447

e-mail : opera@suac.ac.jp

公式ウェブサイト <http://suac.ac.jp/opera/>

(ウェブサイトから直接申し込みができます)

も何本か出させていたたりしました。

—「夕鶴」を歌われたことは？

光岡 全くありませんでした。違うものかなと思っていました。どこの国の言語でも、きちんとした発声の上に乗っかっていけば、それ程問題ではないのかなと感じました。ただ、音型が私のレパートリーとはちよつと違うものがたくさん出てきますので、初めての経験で慣れないものもありましたが、お話としても分かり易いですし、何せ母国語なので、初めての母国語のオペラを静岡の地で歌えたのはとてもいい経験でした。

—他に歌われたオペラは？



(©Flavio Gallozzi)

■ 光岡暁恵 (みつおか・あきえ) (ソプラノ)

昭和音楽大学卒業、同大学大学院修了。イタリア・ミラノに留学。07年よりチューリッヒ歌劇場研修生に2年間在籍。第5回静岡国際オペラコンクールで、日本人初の第1位、三浦環賞、オーディエンス賞の3冠を獲得。藤原歌劇団には06年「ランスへの旅」のフォルヴィル役伯爵夫人役でデビュー。「ルチア」「夢遊病の女」「オリー伯爵」「椿姫」「カプレーティ家とモンテッキ家」で主役を務めて高く評価されている。アメリカ、イタリア、クアチア、韓国の各地でコンサートに出演し国際的な活躍を見せている。藤原歌劇団団員。

光岡 自分のレパートリーにあるもの、例えばドニゼッティの「ルチア」(「ランメルモールのルチア」とか「愛の妙薬」、ベッリーニの「夢遊病の女」とか、そういうものを全曲通してやらせていただけなのは大きな収穫でした。どれもコンクールで歌っているものでしたから、コンクールだけで終わらないで、その後もずっと継続してできました。レパートリーを守りながら歌っていく、キャリアを積んでいくというのは、歳を取っていくとなかなか難しくなっていくので、それをずっとやり続けるというのは大事なことだなと思っています。——このコンクールを今回受けようという方々に、こういう勉強をした方がいいとか、何かアドヴァイスをいただけますか？

光岡 このコンクールは2次予選が特別ですから、ご自分の得意分野のオペラ、レパートリーをしっかりと念入りに勉強していくことが必要だと思います。ある審査委員の方が「自分に合ったオペラを選びなさい」と仰っていました、それが一番の鍵になると思います。

——その「自分に合ったオペラ」というのは、どういう風に見つけていったらいいのでしょうか？

光岡 自分の声質に合って、自分が無理なく歌えるオペラですね。それは師事されている先生とよく相談なさる必要があるでしょう。審査委員の方々も先生ですから、このオペラのこの役はこの人には合っていないんじゃないか、と思われたらそれはやはり無理がありますね。

——この歌が歌いたいかと、自分に合わないものを無理に歌つても、結局上手くないないわけですね。

光岡 そうですね。そこもその人の運と実力になってきますね。1次予選で2次の中の役の曲を歌ってしまうと、もう2次ではその役は歌えなくなりますが、1次では違うものを頑張つて歌つて、2次では得意分野のものを全曲歌えるようにしておく。私はそういう風に作戦を立てて選びまし

た。この2次予選が最も気を遣いました。20分歌いつ放しでしたので。

本選はオーケストラ伴奏ですから、2次が終わってファイナリストが決まるとくじ引きをして本選の順番を決め、すぐにオーケストラ合わせになってきます。ですからもう2次のことは忘れて、すぐに本選の曲に取り掛からないといけません。体力勝負ですね(笑)。

このコンクールでは、1次、2次でピアノ伴奏者が割り当てられます。勿論皆さん素晴らしいピアニストですから、そこで相性の合うピアニストと組めると凄くラッキーですね。私の場合は小椋寺美樹さんという素晴らしい方で、随分お世話になりました。

本選ではオーケストラと一緒にですが、それまでオーケストラと合わせたことがなくても、オーケストラとの練習時間があるので心配いりません。歌は自分のレパートリーのもので少し指揮者とも曲について十分に相談できると思います。でも緊張しててそれどころではないですから、私の場合は無我夢中でした。

オペラ歌手としての資質が問われるコンクールなので、オペラを志している人は是非受けることをお勧め致します。